

## 魅力と活力ある保育園づくり（西部地区）

## 川岸小学校の校地内に併設

## 【メリット】

- ・幼児期から学齢期までの一貫した学びの連続性を確立することができる。
- ・併設により、小学校への円滑な接続が期待できる。
  - ①小1プロブレムの解消
  - ②異年齢集団との関わり(ピアサポート)
  - ③保育士と教員の交流 など
- ・併設により、保護者や地域のかかわりなどの利便性の向上が図られるとともに、一体感が醸成される。
- ・既存建物の活用により、整備費用を抑えることができる。



## 【課題】

- ・全国的にみても先進事例が少なく、併設による施設整備の方法や保育園と学校の独立性を確保した管理区分のすみわけなど詳細な調整が必要となる。



## 川岸保育園に集約

## 【メリット】

- ・既存園のため、認知度が高い。
- ・既存建物の活用により、整備費用を抑えることができる。（不足分は増築により対応）
- ・川岸保育園施設の長寿命化が推進される。

## 【課題】

- ・増築が必要で既存敷地に収まらないことに加え、県道拡幅により駐車場が狭くなり、整備の困難性が高い。また、仮園舎も必要になる。
- ・既存園舎の改築となる。

## 新たな用地取得による移転新設

## 【メリット】

- ・理想の建物配置が可能であり、新築した施設で生活ができる。
- ・(都市計画の観点から)園の設置場所によっては、園周辺のインフラ整備が行われる可能性がある。

## 【課題】

- ・用地確保（選定・取得）に困難さがある。
- ・用地取得を含め整備費が多額となる。

## 地域特性（西部地区）

- ・西部地区内の保育園から、ほとんどの園児が川岸小学校に入学し、西部中学校へ進学する。
- ・市内で唯一小学校と中学校の敷地が一体で学校間をつなぐ整備が可能であり、小中一貫教育を行う「義務教育学校」の設置が検討されている。
- ・小学校と施設面での接続が可能であれば、義務教育と連携した魅力ある幼児教育および保育を実践する地域の拠点となりうる地域である。

## 地域特性を活かした魅力と活力ある保育園づくり（西部地区）

川岸小学校の校地内に、従来の保育機能を大切に受け継ぐ公立の幼保連携型認定こども園を設置することにより、幼児期から学齢期への一貫した学びの連続性を確立した魅力と活力ある保育園づくりが推進できる。

